

314号  
2022年  
5月

# 日赤みやぎ



## タイと宮城の青少年赤十字メンバー（高校生）がオンラインで交流！

これまでタイと宮城の青少年赤十字メンバーは、国際交流事業で相互に国を行き来し、親睦を深めてきましたが、コロナ禍で交流ができなくなりました。そのような中、3月26日（土）、3年ぶりにオンライン上で20名のメンバーが繋がり、好きなことや自分の国のこと、東日本大震災の語り部さんのお話を聴き、気づき・感想を共有しながら交流しました。メンバーからは「それぞれ視点や捉え方に違いがあることが分かり、良い刺激になった」「震災のお話から、今を大切に何事にも挑戦していこうと思った」など感想が寄せられました。

5月は赤十字運動月間です

# やさしいこころを未来へつなごう!

## 青少年赤十字とは?

青少年赤十字（通称 JRC）は、子どもたちのやさしさや思いやりを引き出し、育てる赤十字の事業です。相手のことを思いやることが「人道の心」を育むことに繋がり、豊かな心を持った子どもたちの成長に結びつくことがいじめ等の学校が抱える問題解決の一助となることを期待しています。

### 奉仕

社会のため、人のために今できることから実行する

### 健康・安全

自分やみんなのいのちと健康を大切にする

### 国際理解・親善

世界の人々を知り、なかよく助け合う精神を養う

## 「気づき、考え、実行する」力を育てています



### 数字でわかる青少年赤十字

14,502・・・全国の加盟校数  
3,456,479・・・子どもたちの数  
宮城県では146校31,601名が活動しています!  
令和3年3月31日現在

### 活動例

- ・あいさつ運動
- ・赤十字救急法を学ぶ
- ・小中学校と地域の防災訓練・緑化清掃活動
- ・看護学校の訪問・体験学習・学校間、地域の皆さんとの交流
- ・一円玉募金活動
- ・外国の皆さんと交流に発展



## 青少年赤十字は今年（2022年）5月5日で100周年を迎えます！



## 100周年のテーマは、「未来のあなたへ、やさしさを」。

JRC加盟校の子どもたちが改めて日々行っている活動を見つめなおす機会を作ります。

### （例）

- ・のぼりを掲げる
- ・私の考える青少年赤十字を言葉にする
- ・日々行っているJRC活動の見える化

特設ページは  
こちら！



▲私の考える青少年赤十字を掲げる県内加盟高校の生徒

# 青少年赤十字で広がる学び

## 子どもたちのリーダーシップを引き出す取り組み

県内の高校生・中学生の代表が集まり、赤十字の基本原則や防災・減災についての心構え、救急法などを学ぶことで人道的な価値観を身につけ、さらに集団生活の中での奉仕の実践等を通してリーダーシップの取り方を育成します。



▲ドローイングチャレンジ！  
指一本で支え合い、図形を作ります。



▲自分たちに出来ることを考え  
紙面発表



▲研修を終えて集合写真

※いずれも令和元年度実施

## 災害に備える力を育てる取り組み

防災ガイドブック  
まもなく完成します！

東日本大震災の記憶や教訓を若い世代に伝えていくため、全国の青少年赤十字加盟校に語り部さんの生の声を配信する「JRCオンライン語り部LIVE」を行っています。また、パートナーシップ協定を結んでいる仙台89ersと協力して防災ガイドブックを作成し、県内の学校に配付する予定です。



▼たくさんの子どもたちが真剣にお話を聞いています。



まいのち  
ひろめる  
ぼうさい

## JRCでの経験が その後にも役立っています！



宮城県青年赤十字奉仕団  
菅原 美穂さん

中学生のとき、部活の先生がきっかけでJRCに出会いました。学校周辺のゴミ拾い、老人ホームの訪問、募金活動の呼びかけ、文化祭で障害者支援施設の利用者さんが作ったパンを販売する活動をしてJRCが好きになりました。卒業後には、数々の出会いや発見から得られる学びを深めたいと青年赤十字奉仕団に入りました。そんな私には、ボランティアを続けて学んだことがあります。それは、ボランティアを受ける側のニーズを考える大切さです。赤十字7原則に「公平」がありますが、その人それぞれが求めているものを与えるのが公平です。自分たちに出来ることだけでなく、相手のことを考えたいと思いました。赤十字で活動することを通してその気づきが得られたこと、考えた経験、そして実行したことが私の人生の財産となっています。このことを、他の人に伝えたいなと思っています。

## JRC加盟は カンタン！

- ①ご興味のある先生から組織振興課まで連絡ください。加盟は無料です。（TEL：022-271-2252）
- ②事務手続き完了後、加盟に伴う提供資材を送ります。
- ③学校裁量で青少年赤十字を取り入れて活動いただけます。

# 宮城県支部のトピックス

## 今こそ理解したい国際人道法 職員がWEBセミナーに参加しました!

2月、当支部職員4名が本社主催の国際人道法普及セミナー(WEB開催)を受講しました。国際人道法は、武力紛争時に紛争当事者が守らなければならない人道的な規則を定めた国際法で、日赤における国際人道法の位置付け、法を取り巻く世界の動向、赤十字標章等の適正な使用などを学びました。

「敵対行為に直接参加しない者に対して、不利な差別をせず人道的に待遇しなければならない」「傷者及び病者は、収容して看護しなければならない」こうしたルールが守られることで、人間のいのちと尊厳を守ることができます。犠牲者を減らすことができます。今後とも国際人道法の普及に取り組んでいきます。



▲全国の日赤職員が参加しました。

## 今年もJRCオンライン語り部LIVEを開催しました!

当支部では、東日本大震災の記憶や教訓を風化させずに子どもたちに繋ぐため、公益社団法人3.11みらいサポートとの協働で、全国のJRC加盟校(小学校～高校)の子どもたちに語り部さんの生の声をオンラインで生配信する「JRCオンライン語り部LIVE」を実施しました。昨年に続き2度目の開催となった今年度は、12日間24回の配信で58校4,221名の子どもたちが参加しました。参加した子どもたちの中には、今年1月に発生したトンガ沖大規模噴火で津波警報が発令された際、家族を起こし、家族で高台に避難する行動に繋げた子がいたと参加校の先生から連絡がありました。次の災害に備える子どもたちの「気づき、考え、実行する」きっかけになることを願い、この取り組みを続けていきます。



▲参加する子どもたちも真剣なまなざしを向けています。

## 全国の日赤で初めて! 災害時のキッチンカーによる炊き出し協定を締結しました

3月7日、宮城キッチンカー協会、食品スーパーの伊藤センターと「災害におけるキッチンカーによる炊き出しの提供等に関する協定」を締結しました。この協定は、日赤の医療救護班が避難所を調査し、食事の改善が必要だと判断した場合、キッチンカーによる炊き出しを依頼し、温かい食事を提供することで、避難環境の改善を図るもので、災害時は保存性が高く配りやすいパンやおにぎりなどに偏りがちです。美味しく温かい食事は被災者の自立を促します。日赤では、災害関連死を防ぎ、レジリエンス※に繋がるよう、避難所環境の整備に取り組んでいます。

※ 災害などに対応し、回復していく力のこと



▲締結式の様子



# 宮城県内施設のトピックス

## ・仙台赤十字病院

### よりよい病院づくりを目指して 病院機能評価を受審&フィードバックをいただきました!

2月2日、3日の2日間にわたり、公益財団法人日本医療機能評価機構の「病院機能評価」の審査を受けました。これは、患者さんが安全で安心な医療が受けられるよう、病院の運営管理や提供している医療を評価してもらい、病院の質改善に役立てるものです。当院をよりよい病院にしていきたい、もっと多くの患者さんに来ていただける頼りになる病院になりたい、という強い思いのもと、病院職員全員が一丸となって臨みました。コロナ禍において、昨年度の延期を乗り越え、無事終了することができ、全員ほっと胸をなでおろしています。今回の訪問審査のフィードバックを受け、よりよい病院運営に活かして参ります！



▲当院の部署担当者が調査評価者に対し、取り組み等を説明・アピール中！

## ・石巻赤十字病院

### コロナ禍でもお店の味を! 職員のためのケータリング事業を開始



▲昼食時にキッチンカーを利用する職員

石巻赤十字病院では、新型コロナウイルス感染予防のため気軽に外食ができない職員のために、市内の飲食店団体「快食(かいしょく)元気(げんき)」とケータリング事業に関する協定を締結しました。この協定は、病院敷地内に日替わりでキッチンカーを出店してもらい、コロナウイルス対応に奮闘する職員に気軽に外食気分を楽しんでもらうと同時に、コロナ禍で需要が落ち込む地元飲食店を応援することを目的としています。事業開始後から毎日多くの職員がキッチンカーを利用しており、「お昼ご飯を選ぶのが楽しみになった」、「出来立てを食べることができ嬉しい」など喜びの声が寄せられています。

## ・宮城県赤十字血液センター

### 全国学生クリスマス献血キャンペーン～学生奉仕団の呼びかけで1.5倍に!～

昨年12月に全国学生クリスマス献血キャンペーンをイオンモール名取・イオンモール富谷・イオンタウン古川の3会場にて実施しました。

本イベントは学生が主体となり、若い世代の目線で企画した催しや、店頭での呼び掛け活動をすることで献血者の増加を目的に実施し、結果は学生の頑張りにより3会場合計210名の採血をいただき、例年同時期同会場の約1.5倍の献血協力人数となりました。血液センターでは新型コロナウイルスの感染防止対策を万全に行っております。皆さまの継続的なご協力をお待ちしております。



▲青年赤十字奉仕団メンバーが呼びかけ!

おしらせ

## 5月は赤十字運動月間です！

赤十字の創設者アンリー・デュナンの誕生日が5月8日、日本赤十字社の前身である博愛社の設立が5月1日であることから、5月は赤十字運動月間となっています。赤十字は、国費などの公費に頼らず、皆様から寄せられる「活動資金(会費)」によって支えられていますので、これからも皆さまの赤十字事業へのご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

活動資金は、赤十字が行う国内災害救護、講習普及事業、赤十字ボランティア、青少年赤十字、国際活動など日々さまざまな人道的活動に使われています。



▲3月：福島県沖地震の際に、避難所に毛布を搬送しました。



▲3月：JRC加盟校がウクライナ人道危機救援金を寄せてくださいました。各国赤十字とのネットワークを通じて、支援活動に使われます。



▲4月：商業施設で救命の方法を来場者に伝えました。

赤十字への支援は  
こちらから！



## お役立ち情報 非常食がんばんレシピ



### \*アネちゃんの\* かんたんごはん帳 Vol.24 保存食で作るちらし寿司

非常食のストックとしては意外と思われるかも。しかし、市販のちらし寿司の素は賞味期限が長く、手軽に使って、とてもオススメです。レトルトタイプで1年、瓶入りだと1.5年ほど常温保存できます。また瓶入りの鮭そぼろは1年ほど、魚の蒲焼き缶は更に長く保存が可能です。年に1度はストックを消費しながら、炒り卵やごはんもポリ袋で作ってみるのもよい練習になります。使う袋は加熱OKのポリ袋。熱に強い素材ですが鍋底に密着すると破損する場合があるので、お皿やザルを入れる等して気を付けましょう。冷蔵庫で3ヶ月もつ稻荷の皮や、缶詰のものを活用して、つまみやすい稻荷寿司にするのもオススメですよ。いざという時カップ麺やレトルトカレーばかりではなく、こうした和食もありがたいもの。ぜひお試しくださいな。

アネ（牧野純子）  
イラストレーター・FCAJ認定フードコーディネーター  
仙台市在住  
赤十字救急法救急員 赤十字防災ボランティアリーダー  
出版社、CM制作会社を経てフリーランスに。著書に「アネちゃんのごはんいっぱいの幸せ」（主婦と生活社）、「夜にちよこっとココットごはん」（朝日新聞出版）がある。

\* 材料（4人分）  
パックごはん(200g)…3個  
※ポリ袋で炊飯した2合分のごはんでもOK  
ちらし寿司の素…1瓶or1袋(200g程度)  
鰯蒲焼きor秋刀魚蒲焼き(缶詰)…1缶  
鮭そぼろ(瓶入り)…1/2瓶  
A (炒り卵)※マヨネーズはあれば入れる  
卵…2個 マヨネーズ…大さじ1 砂糖…大さじ1

#### \*作り方

1. ポリ袋にAを入れ、よくもみ、空気を抜いて袋の上の方をゴムバンドで止める。
2. 大きめの鍋に湯を沸かし、1とパックご飯を入れ、15分ほど加熱する。
3. ボウルにポリ袋orラップを敷き、1のごはんを入れ、ちらし寿司の素を加えてよく混ぜる。
4. 3のちらし寿司を人数分の器に盛り、炒り卵は袋の上から細かくほぐし、盛り付ける。
5. 鮭そぼろと、鰯蒲焼きor秋刀魚蒲焼きを乗せ、あれば彩りにセリや山椒葉(分量外)を乗せる。

